



表紙写真/やんばるの朝日

# CONTENTS

ご覧になれます。

- 1 **くがにくとぅば[黄金言葉] vol.130**  
**海の恵みで、安らぎある人間らしい生活を探求**  
シママース本舗 株式会社青い海 代表取締役社長 又吉 元榮
- 4 **おきぎんマーケティングレポート**  
**第58回おきぎん企業動向調査**  
**(2014年10～12月期)調査結果**  
～県内(地域・業種別)の経営環境と業況感(2015年1～3月期見通し)～
- 12 **地域リレーションシップ情報<sup>(2)</sup>**  
**沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について**  
**「鉱物資源の合理的開発及び安定供給」**
- 14 **けいざい風水**
- 16 **おきぎんカトレアクラブ通信**
- 18 **最近の県内経済の動向**  
2014年10月の県内景況
- 20 **国内景気動向**
- 22 **沖縄マーケティング情報**  
①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数  
②世界の中の沖縄(年次)  
③グラフでみる沖縄経済  
④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)
- 42 **経済社会のできごと**(沖縄、国内・海外)  
2014年11月
- 44 **各種セミナー等開催インフォメーション**
- 46 **おきぎん調査レポート・バックナンバー**(分野別)
- 50 **ゆがふ編集後記**

おきぎんカトレアクラブ会員の皆様へは「おきぎん調査月報」をインターネットでも公表しております。

<https://cattleya.okinawa-bank.co.jp/index.jsp>

※「おきぎん店舗一覧」につきましては、沖縄銀行ホームページをご参照下さい。

## 海の恵みで、安らぎある人間らしい生活を探求



シママース本舗

株式会社青い海

代表取締役社長 又吉 元榮



沖縄では昔から美しい海からつくられる塩のことを「マース」と呼び、親しまれています。今回は、赤と青の包装で沖縄の家庭では定番の「沖縄の塩 シママース」を製造されておられる、株式会社 青い海の又吉社長にお話を伺って参りました。

### 昔ながらの「マース」を復活させようと有志が集い、設立したのが「株式会社青い海」の原点

会社設立は昭和49年になりますが、沖縄復帰後の48年に結成した「沖縄の青い海とマースを守る会」が、「株式会社 青い海」の法人設立の母体です。

昔から四方を海に囲まれた沖縄では、美しい豊かな海から塩焚き職人によって作り出された塩を「マース＝島の真塩」と呼び、個人が経営する「シンナー（塩庭）」と呼ばれる塩田が泡瀬や豊見城等の沿岸域に広がっていました。しかし、47年の本土復帰後、塩専売法の規制によって、この伝統的な海水からの製法は禁止となりました。時代は国策により、天日や釜焚きなどで海水を濃縮する方法とはまったく違うイオン交換膜製法に切り替わり、製塩業者は廃業に追い込まれました。

イオン交換膜製法によってできる塩は、塩化ナトリウムの純度は高いのですが、ミネラル分をほとんど含まず、また、県内の至る所で沖縄の伝統食と馴染まないという弊害が起きていました。

そうした事態から、後の青い海の創業者、故・知念隆一氏が、何とかして体に必要なミネラル分を含んだ海水の塩を残したいと奮闘しました。結果、沖縄の青い海を守り、昔ながらの「マース」を復活させようと有志が集い、設立したのが「株式会社 青い海」の原点です。

### 伝統の製塩方法を継承しつつ、時代背景や課題をクリア

当時は規制もあったことから、沖縄の海水のみを使った「マース」の復活は認められず、日本専

売公社（現日本たばこ）から輸入天日塩を購入し再生または加工するという形で製造許可を申請しました。

昭和49年に沖縄の塩の製造工場「沖縄1号」として許可され、私たちのロングセラー商品である「沖縄の塩 シママース」が誕生し、昭和50年に沖縄市字高原に工場を完成させて本格操業を始めました。

「沖縄の塩 シママース」は現在でも、当時の製法に準じ、天日塩（メキシコまたはオーストラリア産）を沖縄の海水に溶解した後、平釜にて再結晶させるという方法で製造しており、伝統の製塩方法を継承しつつ、時代背景や課題をクリアしてきました。

昭和53年には、比屋根（泡瀬）の通信施設が返還になった跡地に本社・工場を移転し、この頃から本格的に県外移出に乗り出しました。

環境問題や、添加物・着色料などの食品公害が取り上げられて、健康食品が注目されはじめた時期で、その時代の波に乗って、業績を伸ばしてきました。また、安全食品ということで生協のバイヤーの目に留まり、日本全国に「沖縄の塩 シママース」が知れ渡りました。

平成3年には、今の糸満市西崎町に1万トンの製造能力を持つ新工場が完成して操業を開始し、平成4年に比屋根から本社・工場を移転しました。

現在では、私たちの塩の生産量は設立当初の年間300トンから、約7,000トンに増え、その内95%が県外出荷となっています。

また、沖縄大交易会を活用して香港企業のOEM生産を請け負い、平成26年12月より香港向

けに新商品「沖縄の塩 島そだち」の輸出を始めました。

移転当初、工場に3.5m×20mの大型の「平釜」を4基設置し下から薪で焚いたのですが、釜が大きいため、なかなか沸騰しませんでした。原因は熱が上昇気流で煙突へ逃げていた為であり、そこで急遽、鉄蓋を造らせて被せたら解決したという、懐かしいエピソードがあります。

私たちが、現在でも古式の効率の悪い「平釜」を使用しているのは、「平釜」しか使用できないという塩専売法に則ったものでもありましたが、「平釜」の良さもあるからです。

「立釜」では、時間短縮ができ、正六面体のきれいな塩ができるのですが、「平釜」では、じっくり煮詰めた水面の表層にできるフレーク状の塩がより円やかな味わいになります。



▲平釜で、濃い海水をじっくりと煮詰めます。

### 念願だった沖縄の海水100%を原料にした「沖縄の海水塩 青い海」

平成9年に塩専売法が廃止となり、海水から直接、塩をつくる事が可能になりました。これにより日本各地で競い合い、海水塩を製造するメーカーが続々と設立しましたが、私たちは、県内初の塩製造メーカーとして、長年培ってきた歴史とノウハウを元に、設立当初から念願だった沖縄の海水100%を原料にした「沖縄の海水塩 青い海」をつくり上げました。

糸満沖合い約2,000mから取水した海水だけでつくる塩は、豊かな海の結晶であり、塩本来の旨さに満ちたものです。創業者である知念氏の思いがようやく叶いました。

### 伝統ある塩づくりを守りながら、さらに良質で安心して味わえる商品を

海水塩の販売以降、「やきしお」、「スパイスシリーズ」、「まぐねしお」など時代のニーズに対応した製品を続々リリースし、生産量も飛躍的に伸びました。

塩をつくると必ず、副産物として「にがり」と、ゲル状のものができます。これまで、ゲル状のものは廃棄していたのですが、何か使えないかと試行錯誤、研究しました。結果、塩にブレンドすることにより、にがり由来のマグネシウムが7倍含まれることで、塩分を18%カットした「まぐねしお」が開発できました。

また現在、料理人の方々や一般消費者さまのお声やニーズを逃さず反映させた、焼き鳥用、焼き魚用、和食用、天ぷら用等、料理の用途別に最適にお使い頂ける塩を開発準備中です。

伝統ある塩づくりを守りながら、さらに良質で安心して味わえる商品をつくりだすため、新たな研究開発に取り組んでいます。

### 「ひとつをみて、それから派生する能力」が、会社が伸びていく原動力

私たちは、これまでの塩専売法の規制の歴史から機械化したくてもできなかったこと等もあり、どうしても横の繋がりが強く、良くも悪くも上下関係があまりなく、のびのびとした社風です。

しかし、良質で安全な食品を追及していることもあり、また何よりも信用が大事であることから、社員には窮屈かもしれませんが、コンプライアンスの遵守の徹底に日々努めています。

また社員には、お客様と話したことをそのまま報告するのではなく、お客様との話の端々で、「これは、おもしろい展開ができるのでは？」という様な捉え方ができるようになれば一人前だと、機会あるごとに教育しています。社員の1つのアイデアが何億円という商材を生むかもしれません。

「ひとつをみて、それから派生する能力」が、会社が伸びていく原動力だと思います。

### (結び)

最後に、私たちは会社発足の原点からして、当社の塩づくりを通した企業活動は、利益追求のみを考えるのではなく、安らぎのある人間らしい生活を探求する手段としてとらえています。そのために、社員が心身共に健康で働ける職場環境を整備し、社会に安心して提供できる商品づくりを毎日の目標にして、これからも邁進してまいります。これからも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

# おいしさに塩がある。



「沖縄の塩シママース」、「青い海」は、株式会社青い海の登録商標です。

シママース本舗



株式  
会社

青い海

<http://www.aoiumi.co.jp>

本 社：〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町4丁目5番地の4  
TEL.098-992-1140 FAX.098-994-8464



沖縄のサンゴ礁を次の世代へ!!

株式会社青い海はサンゴ礁の再生事業を支援しています。詳しくは



## ✦ 北中城村

### 中部広域の交流拠点に

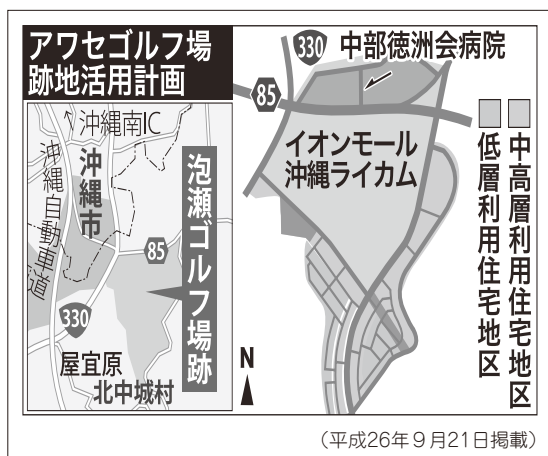
北中城村は大部分が丘陵台地のため、まとまった平地が少ない地域で経済活動地域も限られていました。2010年7月に駐留軍用地として60年あまり使用されていた米軍施設・泡瀬ゴルフ場(約47ヘクタール)が返還されました。

アワセゴルフ場地区の跡地活用について「環境」「健康」「観光」の三つの理念を街づくりの方針とした都市計画マスタープランが策定されています。「複合型商業交流施設ゾーン」をメインに「医療福祉施設ゾーン」「住宅ゾーン」などからなる地域交流拠点の形成を目指した街づくりが進行中です。

泡瀬ゴルフ場地区北側の沖縄市はエイサー文化が県内外に発信され、南側は国指定史跡の中城城跡が中城村にかけてそびえ立ち、古琉球に誘う観光名所もあることから、中部圏域における広域交流拠点として位置付けられています。このうち「複合型商業交流施設ゾーン」は観光・文化・商業施設などを集積し、地元客のみならず沖縄を訪れる国内外の観光客の来場を見込んでいます。また、複合型商業交流施設(ショッピングモール)や医療施設の開業による地元雇用の増加なども見込まれることから、地域経済活性化にも大きな影響を与えることになります。

これまでも返還跡地活用は地域活性化や地域経済拡大の起爆剤となってきたことから、北中城村が中部広域の経済発展の交流拠点となることを期待します。

(沖縄銀行 北中城支店長 北城 肇)



## ✦ 女性の社会進出

### 環境整え「輝く沖縄」へ

先日の内閣改造で女性閣僚が過去最高の5人となったことは、大きな話題となりました。政府は「女性が輝く日本」の実現を掲げており、今後、女性の社会進出を後押しする環境整備が進むことが期待されています。

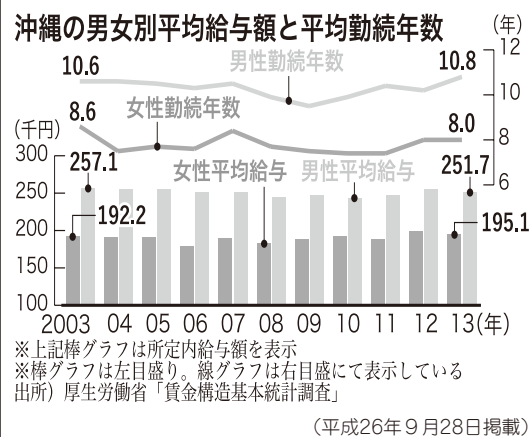
厚生労働省の調査によると、2003年以降、沖縄県の女性の「平均給与」および「勤続年数」は、男性の7~8割程度で推移しており、依然として男女差がみられ、着実に改善傾向にあるとは言えない状況にあります。

このような状況下、沖縄県はことし発表した「沖縄県人口増加計画」の中で「女性の活躍推進」「子育てセーフティネットの充実」を掲げているほか、昨年は「待機児童対策行動指針」の策定なども行っています。今後、このような政策の効果や、県内企業の制度拡充(育児休業・職場復帰・再就職)などにより、女性が社会進出しやすく、より長期間勤務できる環境、出産・子育てを経てもキャリアアップがスムーズに図れる環境の整備が期待されます。

女性のワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現は、本県における世帯収入の底上げをはじめ、各業界における人材不足の解消や、女性ならではの発想による新市場の開拓(商品、サービス)、合計特殊出生率の改善など、多くの好影響を及ぼすことが予想されます。

「女性が輝く」ことは、「沖縄の未来が輝く」ことでもあります。まずはその意識を県民が共有し、夫婦の家事・子育て分担など、身近にできることから進めていくことが大切であると思われます。

(おきぎん経済研究所 研究員 喜瀬 真人)



## 女性活用への期待と課題

### 長期的な環境づくりを

現在、女性の「管理職登用」や「社会進出」を促す動きが注目されています。この背景には日本の生産年齢人口減少が懸念される中、企業が多様化する顧客ニーズを的確に捉え、女性を労働力としてだけでなく、女性ならではの発想やおもてなしの心を企業競争力の源泉として、経済全体の底上げにつなげようという狙いがあります。

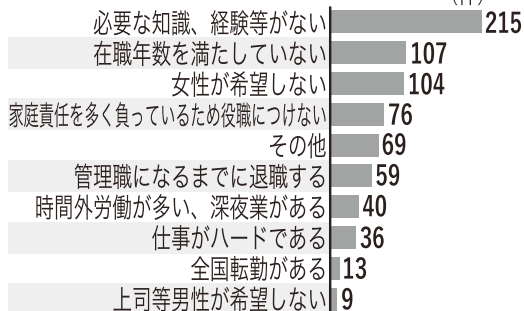
沖縄労働局の調査によると、県内企業において女性の役職者が少ない理由として「必要な知識・経験等がない」が最も多く、次いで「在職年数を満たしていない」「女性が希望しない」となっています。

また「家庭責任を多く負っているため役職につけない」「管理職になる前に退職する」「時間外労働が多い、深夜業がある」などの意見もみられることから、企業は管理職登用に向けた配置や研修を行うだけでなく、仕事と家庭を両立できる職場環境づくりを通して、女性の仕事に対する意識を変えていくことが重要になってくると考えられます。

企業の中には女性活用に向けた取り組みを推進する一環として、女性管理職を増やすための目標づくりや目標達成のための取り組みを策定するといった動きもみられます。今後の課題としては、長期的な目線に立って女性の持つ能力を幅広く活用できる環境をどのように整備していくかといったことが問われるものと思われます。

(沖縄銀行 経営監査部 上席検査役 又吉 謙)

### 女性の役職者が少ない理由(有効回答数 524)



出所：沖縄労働局「ポジティブ・アクション取組状況調べ」

(平成26年10月5日掲載)

## 県民の1日平均歩数

### 意識高まり順位上昇

10月13日は体育の日です。日頃の運動不足の反省から、この日はウォーキングや各種スポーツなど運動する方も多いと思われます。ところで、沖縄県民は日頃どの程度歩いているのでしょうか？

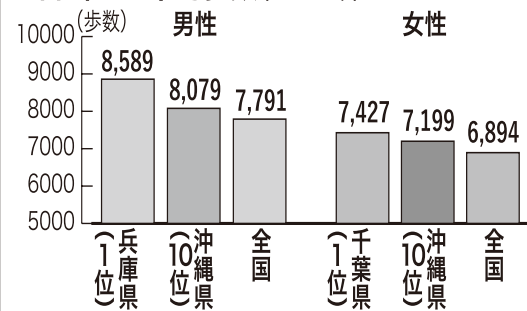
厚生労働省の「国民健康・栄養調査結果(2012年)」によると、沖縄県の男性(20～64歳)の1日当たり平均歩数は8,079歩となっています。これは全国平均の7,791歩を上回り全国10位と高い順位に位置しています。女性(同)の1日当たり平均歩数は7,199歩で、こちらも全国平均の6,894歩を上回り全国10位と高い水準です。さらに2年前の同調査と比較すると、男性が7,214歩で18位、女性が5,823歩で36位であったことから、男女共に大きく順位を上げています。

「沖縄県民は歩かない」とよく言われていますが、この調査から他都道府県に比べ県民が日頃多く歩いている状況が分かります。特にこの2年間で歩数、順位ともに大きく上昇したことから、日頃の健康意識の高まりがうかがえます。

県は長寿県の復活を目指す運動の一環として、県内各地で健康づくりに関する講演会やウォーキング大会の開催などを推奨しています。また、民間企業においても職員の健康づくりに積極的に取り組む企業が増加しています。健康づくりは食事の改善等も重要ですが、併せてウォーキングなど日頃の運動も、意識的に取り組まれてはいかがでしょうか。

(沖縄銀行 総合企画本部 上席調査役 城間 有)

### 1日当たり平均歩数(2012年)



※平均歩数は年齢調整値(小数第1位を四捨五入)

出所：厚生労働省「国民健康・栄養調査結果(2012年)」

(平成26年10月12日掲載)

### 国際観光地としての、情報発信力を、磨け

読者の皆さま、新年明けましておめでとうございます。2015年の新春を心よりお喜びもうしあげます。今年も皆様のご健勝と事業の発展、県経済の躍進を期待したいものです。

さて、昨年12月、沖縄経済同友会が主催するアジア視察旅行に同行する機会を得て、ラオスとカンボジアを見て参りました。詳細は次回のコラムに譲るとしまして、今回まずは、海外の「国際空港」のお話を少し。

ラオスの首都ビエンチャンへは、チャイナエアーで台北の空港（桃園国際空港）を経由し、さらにバンコクの空港（スワンナプーム国際空港）を経由して行ったのですが、その両空港の巨大さにまずびっくり！です。申し訳ないが、那覇空港などとても比較にならない規模で、歩いている通路の先が、まるで見渡せない程なのです。規模だけでなく、両空港は「国際ハブ空港」であり、その空港から世界中の都市に、毎日、沢山の飛行機が飛び立って行きます。つまり、台北、バンコクに住んでいれば、世界各都市へ、一ツ飛び、という事で、それは香港や、韓国の仁川でも同様です。羨ましいですね。しかし、読者の皆様、わが那覇空港も将来、それは実現可能である、と考えたら、どうでしょうか。実は那覇空港の国際便はアジアの都市を中心に急増中で、3年前と比較して約三倍に増加しているのです（2014年12月末の国際便は週100便以上）。将来の、本格的国際ハブ空港目指して、県民が力を合わせて、着々と準備を進めたいものですね。

さて、年が明け、今年の沖縄経済はどのような岐路をたどっていくのでしょうか。昨年の沖縄経済は、一部、消費増税や原材料高騰の影響を受けましたが、まずまずの活況を呈したと思います。今年も、人口や世帯数の増加、また観光客の増加にも支えられ、経済（GDP）の約6割を占めるといわれる個人消費を中心に堅調に推移するだろう、といわれています。建設関連も大型の公共事業を中心に順調のようですが、なんともいっても牽引役として期待されるのはやはり観光産業でしょう。たまたまテレビを見ておりましたら、中国からの観光客の様子（他県）をレポートしておりました。彼らは（日中間の政治的な軋轢もあり）当初、恐る恐る日本にやって来るそうです（ホントかな）。しかし実際の日本人の対応の良さや、街の美しさ、食の旨さに大感動、そして、持っているスマホを活用して、仲間にその様子を、バンバン配信するのだとか。政府の宣伝をよそに、日本の実像を知った仲間は、「では俺も行って見るか」の、ノリで、日本にやってくるのだとか。本当かどうかは定かではありませんが、「さもありなん」と、妙に納得させられました。

さて、沖縄に訪れて来てくれる外国人観光客。やはり大半がスマホから情報を得て、行動する方が多いとか。ソーシャルネットワーク社会は、時空を超えて、情報が飛び交う世界。国際観光地としての沖縄の情報発信力がまさに問われている、と思います。今の今も、彼らのスマホから発信される「沖縄の今」は、瞬時に世界中を駆け巡っているのです。品格ある国際観光都市を目指すオキナワ。さあ、どうする。

（株）おきぎん経済研究所 代表取締役社長 出村郁雄）